

映像カメラマンの伊藤浩美さんに、富士北麓を案内していただいた。図らずも、20 代から 80 代まで、すべての世代をうめた老若男女 11 人がたどりついたのは、〈女人天上〉(よにんてんじょう)という、摩訶不思議な名前をもつスポット。

江戸時代、女人禁制だった富士山は、女性が富士山頂を遥拝できるのは 2 合目までとされていた。しかし、2 合目からは富士山頂もご来光も拝めないで、1 キロほど東南に設けられたのがこの遥拝所だそうだ。旧吉田登山道沿いを歩いて、途中から少しだけ山側にはいった薄暗い中にある。

地元の「すその路研究会」の方々が、古文書から調べ起こして、1980 年に発見したというから、1873 年(明治 5 年)に禁制が解かれた後の 100 年近くは、ほとんど人が訪れないまま、さびれてしまったのだろう。おそらく、導かれるように発見したと察せられるが、導いたのが、はたして女人なのか富士なのかはわからない。

現在も、立て看板と石碑と大岩だけが、植林の中にひっそりたたずみ、富士登山の賑やかさや昨今の写真ブームとは、まったくかけ離れた雰囲気につつまれていた。

雲がきれて次第にあらわれた山頂は、そのアングルまでもが時を越え、初対面のわたしたちを魅了した。12 月中旬の寒中ではあったが、だれもが立ち去りがたく、降りかかった沈思黙考のひとときを胸に、静かに山をおりた。